

服薬および注射のアドヒアランスに影響する生活習慣

○菊池 千草¹, 藤田 直希¹, 菅沼 千枝¹, 松永 民秀¹, 鈴木 匡¹ (¹名市大院薬)

【目的】効果的に服薬指導を行うにはアドヒアランスに影響を与える要因について把握することが重要である。しかし、アドヒアランスに影響する因子については科学的に十分に解明されていない。本研究は生活習慣がアドヒアランスに与える影響について検討した。【方法】対象は糖尿病薬物療法体験学習研修に参加した薬剤師とした。毎食直前の注射と毎食後の内服の併用という、参加者全員が同じ処方内容にて2週間の模擬体験学習を2回行った。体験学習中は食事、注射、内服時間を記録してもらい、薬物療法実施率を求めた。体験学習終了後に生活習慣に関するアンケートを実施した。アドヒアランスと生活習慣の関係について解析した。【結果】対象者92名のうち、アンケート未記入と脱落例を除く67名を解析対象とした。独居群と比較し、同居人のいる群の実施率は有意に高い値を示した。さらに、実施率は「年齢」と有意な正の相関を示し、「規則正しい就寝時間」では正の相関傾向を示した。また、6カ月後の調査で、34名(50.7%)が本研修を活かして患者のアドヒアランスを向上させることができたと回答した。就寝時間についての指導はアドヒアランスの向上と正の相関傾向を示した。【考察】実際の患者では個々に処方内容が異なるため、アドヒアランスに対する処方内容の影響を除外することは困難である。本研究では同じ処方内容とすることで、その影響を取り除くことができた。実施率を高くした要因として、「同居人」、「年齢」、「就寝時間の規則正しさ」があった。また、就寝時間についての指導はアドヒアランス向上に結びつく可能性が考えられた。患者の就寝時間を把握することはアドヒアランスを向上させる服薬指導につながることを示唆された。